

訂正とおわび

本誌のバック・ナンバーにおいて、下記の個所に誤りがありました。おわびして訂正いたします(本誌のウェブ・ページで同様の内容を掲載しています)。(編集部)

■ 2011年12月号

● 特集

p.79 タイトル:電源投入直後～出力する
→電源遮断後の一定期間、再起動しない
説明部:電源投入直後～安定するまで
の→電源遮断直後に再投入しても、

図1中:470 μ に C_1 、100 μ に C_2 を追記
右↑8行目、6行目、4行目、3行目、
2行目:C→ C_2

p.82 写真1のコメント:「入力、被測定
回路へ」と「出力、オシロスコープへ」
が反対

p.84 タイトル:75 Ω 系回路の～変換
器→50 Ω 系の信号源を75 Ω 系の機器に
接続するアダプタ

p.87 写真4の縦軸:-56、-36→-
76、-56、-36

p.89 説明部:超低雑音→低雑音
右↑13行目:「、最大出力電圧は約±
3.8V」を削除

p.90 右↑1、2行目:「出力振幅が大き
くなる～」を削除

p.91 図1中の C_2 :1000 μ →100 μ

p.93 右↓5～9行目:「低雑音性能が～」
を削除

p.96 左↓2、3行目:インピーダンス
の～を持ち→入力インピーダンスが低く
左↓4、5行目:アンプがあると、～
観測できません→電流アンプを使用します

p.104 写真2(a)20 μ s→20ms、出力電
流波形のピーク:300V→536V

写真2のキャプション:(b)→(c)、簡

易電子負荷回路の電源→電源

写真4のキャプション:入力:5V/
div→入力:0.5V/div

p.105 図1中の Tr_1 :70W×2→70W

図1のキャプション:「ディレーティン
グ50%」を削除

p.114 図1を下図に修正

図3中:3.3kに R_d 、220 μ Hに L_1 、
2SC2655に Tr_1 、2SC1815に Tr_2 、45mA
に I_{out} を追記

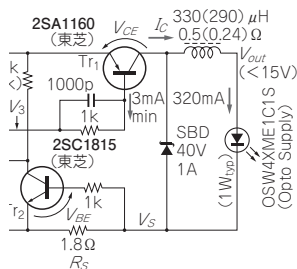
p.117 右↑5行目:付加時→負荷時

p.118 右↓6行目:ソフトウェアはフリ
ーのUA-25(EDIROL)と→UA-25
(EDIROL)とフリーのソフトウェアは

p.119 図2のキャプション「15W型～」を削除
p.120 写真1の吹き出し:放電用抵抗→
電流制限抵抗 R_S

図3のキャプション:抑えてちらつき
を減らす対策→抑える対策

左↓2行目:コンデンサ→インダクタ
右↓6行目:ちらつきを抑える→ I_F の
電流変動を抑える



右↑6行目:IC₁→ Tr_1

p.125 表2のキャプション:帰還抵抗
 R_f →帰還容量 C_f

写真3キャプション:「電源5V。」を削除
p.133 図2のIC₁:LME49720→LMC6482

左↑3行目:LMC4682→LMC6482

p.143 図5の D_1 :PANJIT→サンケン電気
左↓10行目:ダイグラム→ブリアグラム
p.147 図1中の吹き出し:地点→接点

● 電動空気ポンプの製作

p.194 図3の Tr_3 、 Tr_4 :2SK1172(富士電機)
→2SK1172(ルネサス エレクトロニクス)

● マイコン搭載XBeeで作るゲートウ エイ基板

p.166 図6の吹き出し「応答」の矢印の
先:192.168.100.1→219.101.148.16

● 一石オーディオ・アンプに挑戦

p.226 右↑2行目:トランジスタ1個の
→トランジスタの

p.228 右↓3行目:ドレイン電流→ゲート電流

p.231 図8:1.5 μ →1.5n、27 Ω 1.00 Ω
→27 Ω +1.00 Ω

写真2のキャプション:増幅率→ I_{DSS}

p.232 写真4(a)中の吹き出し「放熱器～」
の矢印の先 下写真に修正

